

2014年（平成26年） 5月 688号

愛によって真の平和が出てくる

マリノ E.デハクト Jr.

死刑を求めている国は、社会としてゆるすことができないと言えるでしょう。他人の命を奪った者は死ななければならないという考え方は、カトリックでは基本的に認められません。フィリピンでは、数年前まで死刑を定めていたのですが今は廃止されました。しかし新聞を見れば、犯罪によって殺された人がよく報道されています。恐ろしいことです。やっぱり人を許すのは、どこでも難しいです。

福音書では、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」とキリストが命じられました。そして天の父が完全であるように、あなたがたも完全な者になりなさいと弟子たちに言われました。完全な者はどんな人でしょうか。失敗しない人でしょうか、罪のない人でしょうか、毎日ミサに出ている人でしょうか、授業で学んだことは全部覚えている人でしょうか。そうだったら、キリストに従うのは、とても無理なことだと思いませんか。

確かに無理ですね。なぜなら失敗と罪がない人は誰もいないはずです。ミサと祈りの時間をサボったことがない人がいるかもしれませんが、時々体が聖堂にいても魂はどこかに飛んでしまっている場合もあるでしょう。特に説教が長い時は、そんなことがよくあります。ですから主キリストは私達にそういうものだけを求めています。

私達は周りの人たちに対して、誰にでも平等に奉仕することができればいいのです。好き嫌いとは関係なく、皆と一緒に過ごすことができればキリスト者として成長することができるでしょう。

しかし共同生活の中で過ごすことは、簡単ではありません。性格が合わない人と一緒に生活するのはなかなか難しいです。無関心にすれば何となく問題はなさそうに感じられるのですが、実際に心の中では、真の平和は感じられません。そうになると信仰生活も不安になります。ミサの中で、もし嫌いな人が隣に座っているならば、平和の挨拶をする時は、辛いのではないのでしょうか。

あるいは嫌いな神父様のミサにあずかってしまうとき、彼の顔を見るだけで祈りたくなくなってしまわないのでしょうか。

でも、もし敵を愛するように努力するならば、変わります。ある意味で敵を愛することによって真の平和が生まれることになります。

私達は今、迫害されていないかもしれませんが、世の中では、信仰のために迫害されているキリスト者たちがまだいます。その人たちが信仰を捨てないよ

うに祈りましょう。迫害者たちには、神様の怒りによって滅ぼされることなく、
回心する心が与えられるように願いましょう。